

法人（事業所）理念	<p>私たちは一人ひとりに合った幸せな未来が描けるように未来のカタチを共に考え、学び合い、成長できる支援を目指します。</p> <p>1、子どもの個性と可能性を大切にした療育</p> <p>子どもたちは皆それぞれ違った個性と可能性を必ず持っています。私たちはいつでも子どもの可能性を信じ、それぞれの個性を大切に育て、一人ひとりに合った発達と成長をサポートすることで、子どもたちと一緒に幸せな未来を描いていきたいと思います。</p> <p>2、心を豊かにする療育</p> <p>様々な遊びや学習の体験、人との交流を通し、一つひとつ『できること』を増やすなかで、子どもたちは自分に自信が持てるようになります。自分を理解し自信を持つことでコミュニケーションも積極的になり、自分だけでなく他者を理解し、思いやる豊かな心が育まれ、幸せな未来を仲間と一緒に描けるようサポートします。</p> <p>3、家族が安心して未来を描く場所づくり</p> <p>私たちは子どもたちとの療育の時間だけが支援だとは思っていません。子どもたちが生活する全ての時間においてご家族と協力しながら安心できる環境を共に考えていきます。家族一人ひとりが安心して未来を描けるサポートを目指します。</p>
支援方針	<p>子どもが持つ個性や可能性が引き出されるよう、ご家庭からの聞き取りや活動観察、さらには感覚プロフィールや適応行動尺度などの各種心理検査を実施し、一人ひとりのアセスメントを十分とった上で個別の発達過程に合わせた療育を考えます。それぞれの発達段階に合う療育方法を、応用行動分析学（ABA療育）や運動療育、アートなどの創作活動、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れながら、一人ひとり個別プログラムと小集団プログラムを組み合わせで実施します。実施した日々のプログラムは記録と評価を累積して次の支援に繋げ、ご家庭やその他支援者と情報交換しながら連携した包括的支援がされているよう心がけます。地域に暮らす一人として、社会と関わりながら本人らしい生活ができるよう支援します。</p>
営業時間	<p>放課後等デイサービス / 平日 14:00~17:00 休校日 10:00~17:00 児童発達支援 / 平日 10:00~13:05、13:55~17:00 ○送迎あり</p>
支 援 内 容	
アセスメント	<p>一人ひとりのことを考えた個別・小集団プログラム</p> <p>〔健康・生活〕〔運動・感覚〕〔認知・行動〕〔言語・コミュニケーション〕〔人間関係・社会性〕の5領域について、子ども一人ひとりに合った支援計画と支援方法で実施できるように、各種発達検査等のアセスメントを組み合わせで評価・分析します。それぞれの発達段階に合う療育方法を検討し、応用行動分析学（ABA療育）や運動療育、アートなどの創作活動、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れながら、一人ひとり個別プログラムと小集団プログラムを組み合わせで実施します。</p> <p>・ポーターズ早期発達プログラム、インクルージョン保育のためのグループ指導カリキュラム</p> <p>子どもの発達段階を6つの発達領域（乳児期の発達、認知、言語、運動、社会性、身辺自立）に分けて評価し561の行動目標が設定されています。個別の発達領域と行動目標を視覚化して評価し、小さなステップアップを積み上げる具体的な支援内容を作成します。また、小集団における多層水準指導は発達水準が異なる子供たちからなる集団に対して、全体として共通した目標の達成に向けた遊び活動を行いながら、個別の支援と集団での学びの両方をバランスよく提供していきます。</p> <p>・Vineland-II 適応行動尺度</p> <p>日常生活の中での適応行動、自分自身のことや他者との関わりに必要なスキルと能力を幅広く評価します。コミュニケーション領域（受容言語・表出言語・読み書き）日常生活スキル領域（身辺自立・家事・地域生活）社会性領域（対人関係・遊びと余暇・コーピングスキル）運動スキル領域（粗大運動・微細運動）について具体的な行動やスキルがどの年齢層の平均水準と一致するのか、お客様の「強み」「弱み」が何であるのかを明確にすることで、支援計画を立てる上の参考資料として利用します。</p> <p>・SP感覚プロフィール</p> <p>聴覚、視覚、触覚などの様々な感覚領域に関する反応傾向を把握することができるので、子どもが日常生活でどのような感覚的な困難や特性を持っているかを詳しく知るためのツールです。日常の支援を行う上で、環境や支援方法の調整を行うために利用します。</p> <p>・その他発達検査等</p> <p>主治医や検査機関で実施された発達検査結果等がある場合は、その検査内容を分析して個々の支援方法や支援計画の資料とします。また、発達検査の希望や必要性がある場合は心理士が検査実施し、その他アセスメント内容と合わせて支援計画を作成します。</p>
健康・生活	<p>目的目標：子どもが健康で安全な生活習慣を身につけ、自立して日常生活を送るスキルを向上させる。</p> <p>〔個別支援例〕 衛生習慣の確立：手洗いや歯磨きの方法を視覚支援やモデルとなる動画を使って教え、繰り返し練習します。 着替えのサポート：ボタンの留め方や靴ひもの結び方など、着替えの基本動作を手取り足取りで練習。感覚に敏感な子どもには柔らかい素材の服を使用します。</p> <p>〔小集団支援例〕 クッキング活動：子どもたちが簡単な料理を共同で作る活動を通じて、食事の準備や後片付けの方法を学びます。食材を扱うことや、料理の手順を覚えることで自立性を育みます。 生活スキルの学習ゲーム：生活の中で必要なスキル（掃除、ゴミの分別、食事のマナー）を取り入れたグループ活動を行い、楽しみながら学習します。</p>
運動・感覚	<p>目的目標：粗大運動や微細運動のスキル向上と、感覚統合を促進し、日常生活での動作や感覚反応を向上させる。</p> <p>〔個別支援例〕 感覚統合療法：感覚刺激に敏感な子どもには、ブランコやトランポリンを使用して、感覚処理を助ける活動を行います。リラックスできる環境で感覚を調整します。 微細運動の強化：バズルやピース通し、スプーンやフォークの使用など、指先の細かい動きの練習を通じて、手先の器用さを高めます。</p> <p>〔小集団支援例〕 体操やリズム運動：音楽に合わせて簡単な体操やダンスを行い、全身を使った運動を楽しく行います。運動能力を高めながら、感覚のバランスも整えます。 サーキットトレーニング： バランスボール、平均台、トンネルぐりなど、複数の運動ステーションを回る活動を実施。様々な運動を通して、身体の協調性や運動能力を向上させます。</p>
認知・行動	<p>目的目標：認知力、問題解決力、行動の自己調整能力を育てること。</p> <p>〔個別支援例〕 バズルやロジックゲーム：子どものレベルに応じたバズルやブロック遊びを提供し、問題解決能力を育成。自分で考え、手順を組み立てるスキルを養います。 視覚スケジュール：1日の活動を視覚化したスケジュールを使い、予定に従った行動を取れるように支援します。これにより、子どもの行動を予測しやすくし、安心感を高めます。</p> <p>〔小集団支援例〕 共同制作：共同でのアート制作や工作を通じて、協力して目標を達成する方法を学びます。各自の役割を果たしながら、集団での行動調整を行います。 問題解決ゲーム：グループでの課題解決を要するゲーム（宝探しや謎解きゲーム）を行い、協力して目標を達成する力を育てます。</p>

	言語 コミュニケーション	<p>目的目標：言語の理解力や表現力を育て、コミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>【個別支援例】 ピクチャーカードでの表現訓練： 言葉の代わりにピクチャーカードを使って、子どもが自分の意思や感情を表現できるように支援します。カードを見ながら、欲しい物や感じていることを伝える練習をします。 発音や文法の練習：言葉の発音や簡単な文法の練習を通じて、会話力を高めます。絵本の読み聞かせや質問に答える活動を通じ、言語スキルを育てます。</p> <p>【小集団支援例】 ロールプレイ：店員とお客さんなどの役割を決めて遊び、コミュニケーションを楽しみながら学びます。相手の話を聞き、応答する練習を自然な形で行います。 歌やリズム遊び： 音楽に合わせた歌やリズム遊びを通して、言葉のリズムや発音を学びます。言葉の繰り返しや発音の練習をリズムに合わせて行うことで、楽しく言語スキルを習得します。</p>			
	人間関係 社会性	<p>目的目標：他者との関わり方や社会的スキルを育て、共感性や協力する力を養う。</p> <p>【個別支援例】 感情カードを使った感情表現：感情カードを使って、自分の気持ちを理解し、表現する方法を学びます。嬉しい、悲しい、怒っているなどの感情を視覚化し、共感性を高めます。 順番待ちの練習：ターンテイキング（順番待ち）のルールを理解し、他者とのやり取りで順番を守る練習を行います。</p> <p>【小集団支援例】 協力ゲーム：チームでの協力が必要なゲーム（例えば、ボール運びや共同工作）を通じて、他者と協力する力を育てます。仲間と一緒に達成感を共有する経験を積みみます。 グループディスカッション： 小さなグループでテーマについて話し合い、相手の意見を聞く練習をします。これにより、意見の違いを理解し、コミュニケーションスキルを強化します。</p>			
	家族支援	日常生活の支援方法や兄弟、姉妹の関りなど、生活や発達に相談に適宜対応し、連携して子どもの発達療育に取り組める体制を作る。また、社会資源が足りているか確認し必要であれば情報提供を行う。心理職による発達相談にも対応。	移行支援	保育園、幼稚園、小学校等の教育機関と定期的に情報共有し、必要であれば同じ支援方針のもと連携した支援方法を実施する。進学前や進学後についてご家族や支援者からの相談に対応。相談支援事業所との連携を重視。	
	地域支援・地域連携	地域住民や子どもとの交流を図るために地域のイベントに参加することや地域に開かれたイベントを計画する。地域の自立支援協議会に積極的に参加し情報共有することや、地域課題解決への取り組みに協力する。	職員の質の向上	定期的なOJTの実施。ケース会議やご家庭との面談にも適宜参加。専門職からの指導やOFF-JTの実施。保育士、介護福祉士などの国家資格取得支援。支援目標についてPDCAサイクルを利用した自己評価とサポート体制。	
	主な行事等	クリスマスや夏祭りなど季節の行事、近隣施設や公園への社会見学や余暇活動、ボランティア団体を招致したイベント			